



おめでとつございます 百歳を迎えられました

町では、満百歳を迎えられた方をお祝いする長寿表彰を行っています。

このたび、12月4日に石井 善一さん（才代）が、12月11日に西尾 武さん（安井宿）が、12月15日に坂本 光榮さん（中）が、満百歳を迎えられ、町長から寿詞などが贈呈されました。

これからもお元気にお過ごしください。



満百歳を迎えられた
石井 善一さん



満百歳を迎えられた
西尾 武さん

叙勲 瑞宝双光章

令和7年秋の叙勲において、山崎泰國さん（市場）が瑞宝双光章を受章されました。

山崎さんは、30年以上にわたる学校教育および教育行政に携わり、地域の子どものための学びを支えてこられました。平成4年に学校現場へ週休2日制が段階的に導入された際には、地域住民と連携し、しいたけの植菌やそば打ちなどの体験活動を実施。子どもたちに豊かな学びの場を提供するとともに、地域に開かれた学校づくりを進め、学校への信頼を築いてこられました。

こうした長年にわたる功績が評価され、今回の受章となりました。心よりお祝い申し上げますとともに、今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。



瑞宝双光章を受章された山崎泰國さん

がん検診の受診促進へ 標語コンテスト 入賞作品決定

がん検診をより身近に感じてもらう、実際の受診につなげることを目的に、「受けようがん検診」をテーマとした標語を募集しました。多数の応募の中から審査を行った結果、最優秀賞および優秀賞が決定し、12月17日（水）に表彰式を行いました。

入賞作品は、来年度のがん検診受診を呼びかける啓発活動に活用させていただきます。

【最優秀賞】
がん検診 行くであんたも
行きんさい （田中 博明さん）

【優秀賞】
いつ行くの 今しかないでしょ
さあ検診 （森 美香さん）



吉田英人町長から表彰状を受けとった
田中博明さん（左）と森美香さん（右）

頭と体をつかって楽しむ 八頭町スポーツフェスタ

「頭と体をつかってスポーツの秋を楽しもう」をテーマに、八頭町スポーツ推進委員会主催の「八頭町スポーツフェスタ」が、11月16日(日)に開催されました。フェスタでは、多くの世代が気軽に親しめる競技として、「モルック」や「espoorts(太鼓の達人)」、鳥取県生まれの「ニュースポーツバウンスボール」などが行われ、会場はにぎわいを見せました。

モルックでは、狙ったスキットルを倒すたびに歓声が上ががり、繰り返し挑戦する参加者の姿が見られました。また、初めて実施されたバウンスボールでは、声を掛け合いながら楽しそうにプレーする様子が印象的でした。

参加者からは「また挑戦したい」という声も聞かれ、世代をこえてスポーツの楽しさを共有する一日となりました。



バウンスボールを楽しむ参加者

地域で支える子どもの居場所 こども食堂「ふなっこ」オープン

子どもたちの健やかな成長と地域の世代間交流を目的とした、こども食堂「ふなっこ」が開設され、12月12日(金)、船岡地区公民館でオープンニングセレモニーが行われました。

当日は活動紹介のほか、地域の子どもたちによるダンスが披露され、会場は和やかな雰囲気になりました。続いて、地元の実業所や農家から提供された食材を使った温かい食事を囲み、子どもたちは笑顔で交流を深めていました。

代表の森下さんは、「地域で子どもたちの成長を支え、保護者の力にもなる場にしたい」と話しており、今後の活動が期待されます。



笑顔で食事を楽しむ子どもたち

歌でつながるふるさとへの想い 半崎美子ミニライブ開催

八頭町合併20周年を記念し、町づくりミュージック動画「めぐるふるさとやず」の楽曲制作・歌唱を担当したシンガーソングライター半崎美子さんによるミニライブが、12月20日(土)、隼Lab.体育館で開催されました。

当日は県内外から多くの来場者が訪れ、代表曲の披露に加え、八頭町を題材に制作された「めぐるふるさとやず」を来場者とともに合唱し、会場は一体感に包まれました。

半崎さんは「八頭町にはふるさとに帰ってきたようなあたたかさがある。皆さんと一緒に歌って、はじめてこの曲が完成したと感じた」と話しており、合併20周年を祝う心に残る時間となりました。



めぐるふるさとやずを来場者有志と合唱する
半崎美子さん(中央)

八頭町観光大使 桂慶枝襲名披露 八頭公演を開催！

平成28年より八頭町観光大使に任命されている桂慶枝さん。一昨秋、三風改め、明治以来の名跡となる「五代目桂慶枝」を襲名され、その襲名披露公演が12月21日(日)、大江ノ郷バンケットホールで開催されました。全国15カ所で行われた襲名披露公演の舞台は、自身が観光大使を務める八頭町がファイナルとなりました。桂小文枝さん、笑福亭銀瓶さんらそうそうたるゲストを迎え、会場は満席となりました。

桂小文枝さんによる「口上」では、慶枝さんのこれまでの功績と落語家としての第2章に向けた温かい激励がありました。終始笑いの絶えないアットホームな公演の、トリの演目を務められた慶枝さんに、町長から花束が贈られると、会場からは祝意を込めた万雷の拍手が送られ、慶枝さんも感慨ひとしお。これからもますますの活躍を祈念しています。



会場からの万雷の拍手を受ける
桂慶枝さん(左)

新春に誓う防災への決意 八頭町消防団出初式

令和8年八頭町消防団出初式が、1月11日(日)、男女共同参画センター「かがやき」で開催されました。

式典では、吉田町長のあいさつに続き、徳田秀行団長による訓示が行われ、消防活動に功績のあった団員への表彰伝達および授与が行われました。参加した団員は、日頃の活動を振り返りながら、防災への意識をあらためて高めていました。

式典終了後には、岩淵地内の小畑川に架かる才代橋付近において、八頭町消防団と八頭消防署による新春の一斉放水が実施されました。



小畑川に一斉放水をする消防団員

勢いよく放たれる水柱に、今年一年が火災や災害の少ない年となるよう願いを込めるとともに、町民の安全を守り続けていく決意を新たにしました。

町消防団長表彰				
勤続賞	郡家第1分団	団員	井上 創太	
	郡家第2分団	団員	松原 勇作	
	役場分団	副分団長	中林 裕喜	
功績賞	役場分団	班長	岸本 昌也	
	役場分団	団員	森田 匡隆	
	役場分団	団員	上田 将彰	
日本消防協会表彰				
勤続賞		団長	徳田 秀行	
		副団長	安部 泰己	
	郡家第1分団	部長	小出振一郎	
	郡家第1分団	団員	浦林 雅樹	
	八東第2分団	副分団長	朝倉 昭人	
鳥取県知事表彰				
功労賞		副団長	竹本 一史	
	八東第2分団	分団長	坂本 寿裕	
	八東第3分団	分団長	木原 康志	
功績賞	船岡第1分団	副分団長	岡村 伸一	
	船岡第2分団	分団長	大西 洋樹	
鳥取県消防協会長表彰				
功労賞		副団長	山根 浩昭	
功績賞	郡家第3分団	団員	田村 直規	
	船岡第1分団	部長	清水 啓司	
	八東第2分団	団員	山本 剛士	
勤続賞	船岡第1分団	団員	富山 和昭	
	船岡第1分団	団員	栗本 夏樹	
	船岡第1分団	団員	奥井 孝	
	八東第3分団	副分団長	入江 則行	
東部地区消防協会長表彰				
功労賞	八東第2分団	団員	西村 大輔	
勤続賞	船岡第2分団	団員	清水 裕介	
	八東第1分団	団員	岸本 尚	
	女性消防隊	団員	岡村由季子	



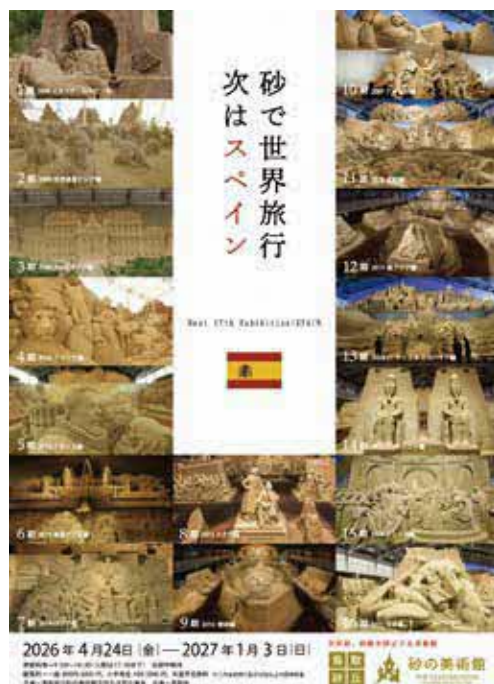
麒麟のまち インフォメーション 第43回 鳥取市

鳥取砂丘砂の美術館 第17期展示 砂で世界旅行・スペイン編

4月24日(金)に開幕する第17期展示会のテーマは「スペイン」。世界的建築家アントニ・ガウディの没後100年の節目にちなみ、サグラダ・ファミリアなど世界遺産をはじめ、スペイン黄金時代の歴史文化など、「情熱の国」スペインの魅力を砂像で表現します。

ところ 鳥取市福部町湯山2083-17
会期 4月24日(金)～令和9年1月3日(日)
9:00～18:00(最終入場17:30)
会期中無休

※4月23日(木)までは休館
観覧料 一般 800(600)円
小・中・高生 400(300)円
※()内は前売り・20人以上の団体料金



【問合せ先】
鳥取市観光・ジオパーク推進課
TEL 0857-30-8291 FAX 0857-20-3947

次回、智頭町へ！



つどいに出席されたみなさん



代表者挨拶をする山崎さん

はたちのつどい ふるさと八頭での 再会に笑顔

令和8年「はたちのつどい」が、1月3日(土)、八東体育文化センターで開催されました。今年度20歳を迎える対象者(平成17年4月2日～平成18年4月1日生まれ)は151人で、このうち109人が式典に出席しました。

式典では、吉田英人町長が「ふるさと八頭を心の拠りどころに、それぞれの夢や目標に向かって力強く歩んでいってほしい」と激励の言葉を送りました。続いて、参加者を代表して山崎里彩さんが登壇し、「これまで支えてくれた方々への感謝を忘れず、大好きな八頭町に恩返しができるよう、これからも頑張っていきたい」と決意を述べました。



令和 8 年 八 頭 町 は た ち の



久々の再会に笑顔を見せる参加者



中学時代の思い出の曲を
ピアノで演奏する伊藤さん

式典後には、はたちのつと実行委員会主催による催しが行われ、名古屋芸術大学芸術学部芸術学科で鍵盤楽器コースを専攻する伊藤秀さんがピアノ演奏を披露。会場は美しい音色に包まれ、参加者は静かに聴き入っていました。その後は、中学校時代の恩師からのメッセージや抽選会が行われ、会場は和やかな笑顔と歓声に包まれながら、はたちの門出を祝いました。